ごあいさつ

安全報告書2025の公表にあたり

阪急電鉄株式会社
取締役社長　嶋田泰夫

平素から、当社の鉄道事業に対しご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。
本年4月に大阪・関西万博が開幕し、人々が活発に移動するようになってきました。会場にお越しになる来場者の方々の多くが、大阪メトロの夢洲駅と直結した東ゲートをご利用になる様子を拝見しても、鉄道が安全で、安心してご利用いただける交通手段として信頼を得ており、ますますその役割が重要になってきていることを実感いたします。一方、当社においては、この4月1日から全線の列車運行及び駅施設等で使用するすべての鉄道用電力を実質的に再生可能エネルギー由来の電力（再エネ電力）に置き換え、実質的に CO2 排出量ゼロとする「カーボンニュートラル運行 」を開始いたしました。これからもさらに鉄道が環境に優しい交通手段であることを訴求して、より多くの皆さんにご利用いただけるよう努力を重ねてまいります。

2024年度に、当社が進めた取組をいくつかご紹介申し上げます。
まず、駅・高架橋等の耐震補強を進めるとともに、変電所設備等の津波浸水対策を実施したほか、いわゆる「ゲリラ豪雨」のような集中的な大雨に対応すべく、線路を支える盛土の補強を実施いたしました。さらに、万が一災害等が発生し、列車が駅間で停車した場合に備え、最寄りの駅や踏切までの避難誘導看板を順次設置しています。一方、施設・車両の検査や補修と、新型車両の導入や大規模な改造は着実に進めておりますが、これらの新型車両ではバリアフリー設備を充実させるとともに、防犯カメラの設置等により、安心かつ快適な車内空間の実現に努めています。
また2023年4月より「鉄道駅バリアフリー料金制度」の活用をスタートしましたが、すべてのお客様が安心して当社の輸送サービスをご利用いただけるよう、ホーム柵の整備やホームと車両の段差隙間の軽減などの取組をさらに加速してまいります。

当社では、お客様に安全・安心な輸送サービスを提供するには、そこで働く「人」が最も大切との考えに立ち、基本動作の励行や作業手順の厳守等を徹底するとともに、双方向のコミュニケーションを活性化させ、風通しのよい職場風土の醸成に取り組んでおります。
特に、事故・インシデント等に繋がるヒューマンエラーを撲滅すべく、「3H（初めて・変更・久しぶり）」というキーワードに着目し、それらの作業などを手掛けるときに、不安に感じた場合は率直に相談できるような職場環境の整備にも日々努めています。加えて従来通り、直接鉄道事業に関わる社員一人ひとりが常に安全を心掛けることはもちろん、経営管理部門などの後方部門のメンバーに対しても、自分たちも安全を守る一翼を担っているとの意識づけを進めてまいります。このような取組に、経営トップも主体的に関わりながら責任事故の撲滅を進め、「『有責事故ゼロ』の継続」の達成を目指します。
この安全報告書は、鉄道事業法第19条の4項に則り、輸送の安全確保のための取組等を広くご理解いただくために公表するものです。皆さまにおかれましては、本報告書をご高覧いただき、忌憚のないご意見やご感想をお聞かせくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。